

市長から市民のみなさんへ

63

山陽小野田市長 白井 博文

山陽市民病院の委譲先を公募します

今年3月に小野田市民病院と統合することが決まった山陽市民病院について、広報11月1日号においてお知らせした「山陽市民病院の今後の方針について」に基づき、現在、統合準備を進めているところですが、5項目の方針の中でも、最大の難問であった「跡地利用」の問題について、次ページにありますように、この度、委譲先を公募することにしました。

本来でしたら、12月議会に統合関連の議案を提案すべきところでしたが、委譲先が決定しないうちに条例だけ可決された場合、最悪、山陽市民病院が持っている160床のベッド数を失ってしまうという危険性があり、上程を見送りました。しかし、4月以降、病院としての機能がなくなることに変わりはありません。医療空白を生じさせないためにも一刻も早く、引継ぎ先を選定したい気持ちは山々ですが、地域のみなさんにとって負担のかからない最良の選択ができるように慎重に選定を行いたいと考えています。それまでご迷惑をおかけしますが、実情をご理解いただき、ご協力をお願いします。

2008年を「反転」の年に

明けて2008年は、一にも二にも財政問題が重くのしかかる一年です。本市の財政難の特徴は、●多額の借金

の返済●病院会計などへの多額の繰出金●団塊世代を迎える職員の退職金、と大きく3つに分けられます。どれをとっても予断を許さないことには変わりありませんが、その状況も2008年中には底をうち、「反転」の時を迎えることが予想されています。市長の任期の最後の一年になりますが、「財政破綻はさせない」というみなさんとの約束は何とか果たすることができそうです。一旦、「反転」に向かった場合、その速度も増してくるのではないかと思いつつも、決して楽観することなく、緊張感をもって、大きなヤマ、“平成20年度予算編成”の作業にとりかかっています。

一方で、子育て支援事業や4月から始まる教育特区への取組みなど、市の基本構想にある「活力あふれる住みよさ創造都市」というスローガンを具体化する事業も計画されています。財政問題を乗り越え、真の意味でのまちづくりの第一歩をしるす一年になるのではないかと大いに期待を寄せているところです。

対話の日

【いずれの会場も19:00から】



1月10日(木) 上市公会堂
1月24日(木) 浜自治会館
2月14日(木) 別府公会堂

※山陽地区は河合病院事業管理者が同席します。

埼玉県秩父市と姉妹都市調印しました



▲「いつまでもこの絆を大切にしたい」と調印式で栗原秩父市長と固い握手を交わす白井市長。

【撮影：秩父市市民生活課】

セメント会社の合併が縁で、旧小野田市が埼玉県秩父市と姉妹都市提携を行ったのは平成8年のことでした。その後、両市とも市町村合併をしたため、交流が途絶えていましたが、昨年6月に秩父市長が本市を訪問されたことがきっかけとなり、交流再開の機運が高まりました。そこで、市では21人の友好訪問団を結成し、昨年12月2日から秩父市を訪問、白井市長が姉妹都市文書に調印し、友好関係を築いていくことを確認し合いました。

今回の姉妹都市提携により、両市の官民一体となつてのますますの交流が期待されます。

【担当】市民活動推進課 (☎ 82-1134)